

# 「日本とアメリカのカルチュラル・ランドスケープ」 チェスター・リーブス (Chester Liebs) 講演会



カルチュラル・ランドスケープ研究の第一人者であり、バーモント大学歴史保全学科の創始者であるチェスター・リーブスの記念講演会。この貴重な機会を逃すことなく、是非ともご参加下さい。

## チェスター・リーブス講演会

工学院大学

(新宿キャンパス高層棟7階765号室)

2007年1月11日(木)

開場 18:30 開演 19:00

主催：都市環境デザイン会議国際委員会、工学院大学建築系学科(予定)

共催：日本建築家協会都市デザイン部会(予定)、日本都市計画家協会(予定)

チェスター・リーブス

(東京大学大学院客員教授、文化財保存学)

ヴァーモント大学に歴史保存学科を発足させ、現在は名誉教授。建築空間の保存に関する学際的なプログラムを構築し、この分野の学問的位置づけ、方法論を確立させた、まさにパイオニア。バーモント州のランドスケープを保全する当時としては画期的な土地利用法ACT250(1973)、そして同州の歴史保全法(1975)の制定に大きく貢献した。

歴史保全ナショナル・トラストの「国家栄誉賞」(1996)、「文化メリット・メダル」(1990)、バーモント保全トラストの「名誉賞」(1984)をはじめとして多くの賞を受けている。1995年に発表した「Main Street to Miracle Mile」は、20世紀におけるアメリカのストリート景観の変化を詳細に整理、編集したものであり、景観研究の必読本として考えられる。

調査研究のため何度も来日しており、フルブライト研究員、筑波大学教授、東京芸術大学客員教授の経験もある。95年の大震災で神戸の歴史的建造物が被ったダメージについての調査、日本の都市におけるママチャリの効用などを日米の専門誌等に発表するなど、両国の理解を深めるのに資する研究活動を続けている。

本講演に関するお問い合わせは、服部圭郎(hattori@eco.meijigakuin.ac.jp)まで。